

ほくじょう なかま
牧場の 仲間たちの 暮らし

よ
良い ところを
みと あ
認め合う



さて 今朝は、ほくたち 仲良し仲間が
遊んでいた 時に 学んだ ことについての お話だよ。
だれかに できない ことを 無理に やらせようと するのは、
危険な 結果にも なり得るという ことなんだ。

ほくたちの 牧場には、
流れの ゆっくりな 小川が 通っていた。
は 晴れている 時には、水に 入って 泳いだり、
まわりの 原っぱで 遊ぶのが、みんな 大好きだった。



ほくたちは ^{おがわ} 小川で ^{みず} 水を ばしゃばしゃ したり、
^{およ} 泳いだり したけど、ニワトリたちだけは、
^{おがわ} 小川には ^{ちか} 近づかなかった。
^{みず} すべて 水に はまりたくは なかったからね。
それで、はなれた ^{ところ} 所で ^{あそ} 遊んでいたんだ。

「ねえ、^み 見て！」 ^{ビンゴ} ビンゴが さげんだ。
「わたし、^{おお} 大きな ^{なみ} 波を たてられるのよ。」
「うわーい、^{おお} ホントに ^{なみ} 大きな 波だね。」
^{じょうげ} アヒルたちは 上下に ^{おおよろこ} ぴかぴか ゆられながら、大喜び。

ネコたちと ^{いぬ} 犬の シドは、^{さかな} 魚とり。
ハヤヤ タニシヤ カエルを つかまえてる。
ネコたちは ぬれないように やってるけど、
^{いぬ} 犬は ^{かま} そんなの お構いなし。



ほくも、いっしょになつて遊んだりするよ。
魚をとったり、波にゆられたりね。
水が深くなり過ぎたら
サッとまい上がって、木かげで一休み。

ネコたちは、日なたの原っぱで遊んでいる
ニワトリたちを大声で呼んだ。
「こっちにおいでよ。いっしょに
魚とりをしよう。すごく楽しいよ！」



「水にはまったりなんかしないよ。もしはまっても、
ビープビープみたいに、水から飛び出せばいいんだ。」
それで、川べりからはなれて立っていた
ニワトリたちは、思い切ってそばに来た。



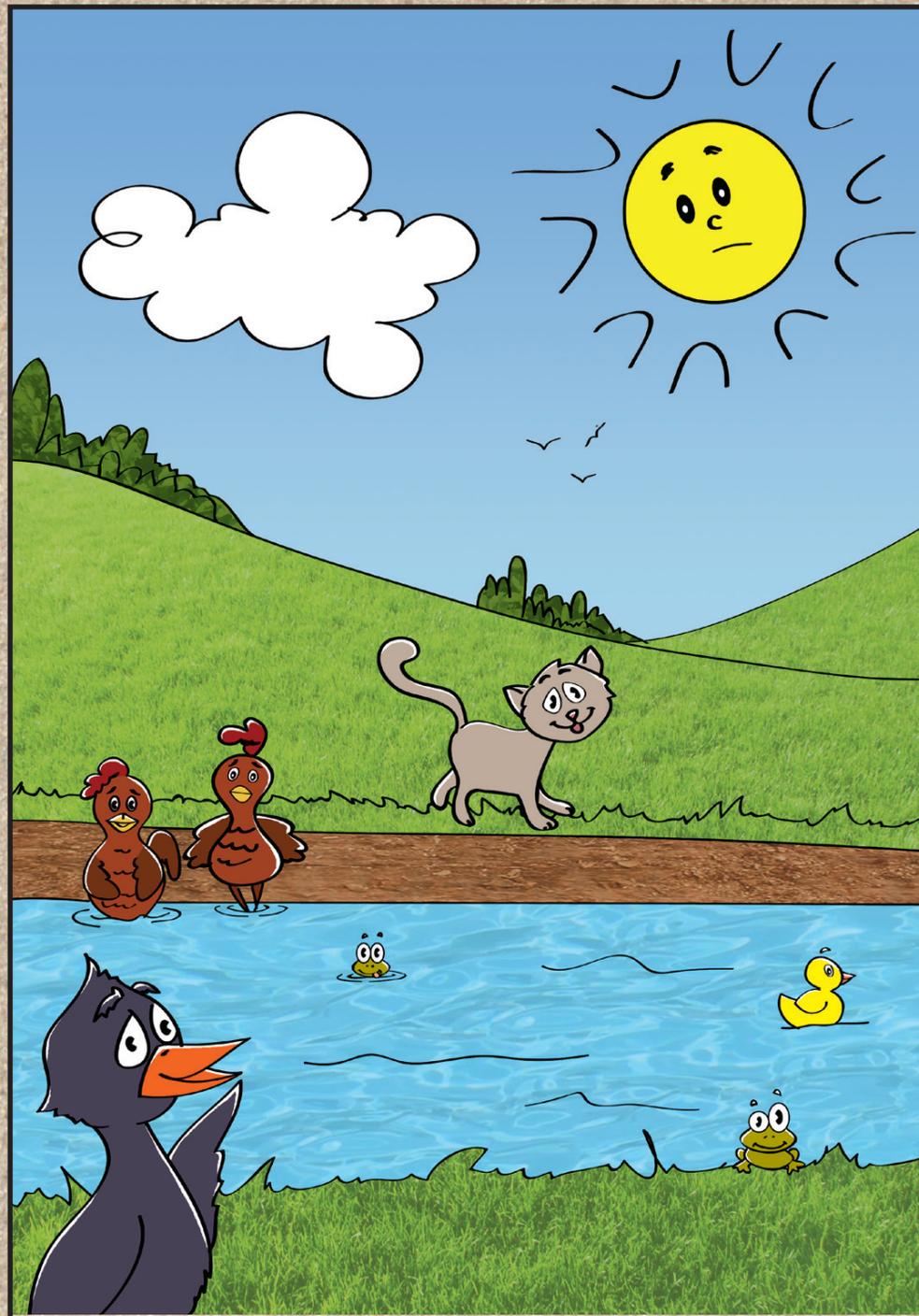


「おいでよ、こわくないから！
思い切^{おも}き^きって やってみれば、楽^{たの}しい^{たの}って 分^わかるよ。
水^{みず}は、おそ^いいか^{ようじんぶか}が^かつたり しないから。」
そう^い 言^いって、用^{よう}心^{しん}深^{ぶか}い ニワトリ^{にわとり}たち^{たち}を しき^{しき}りに さ^さぞ^ぞった。



それで、ニワトリ^{にわとり}たちは そば^{そば}に 来^きて、
川^{かわ}べ^べりに 沿^そって 歩^{ある}いた。
タニシ^{たにし}や カエル^{かえる}の 卵^{たまご}を つつ^{つつ}いたり して^{して}いる^{いる}うちに、
気^きは ゆ^ゆる^るん^んで^できた。

だ^だけ^けど、下^{かりゅう}流^むに 向^むか^かう^うに つ^つれ、
流^{なが}れ^はが 速^{はや}く な^なって 来^きた^たんだ。
あ^あま^まり^りに^にも 楽^{たの}しく^くて、
ぼ^ぼく^くた^たち^ちは 危^{きけん}険^{けん}に 気^きが 付^つか^かな^なか^かった。





すると突然、仲間のニワトリたちが、
水に流されてしまったんだ。
「助けて！」ニワトリたちがさげた。
「おほれちゃうよー！」

ほくはすぐさま、助けに向かった。
シドも、ほくに続いた。
ほくたちは各々1羽ずつ、安全な陸に引き上げた。
すごく大変だったけどね。

ほくたちはみんな、ブルブルふるえていた。
寒かったからじゃなくて、こわかったからだよ。
それがどんなに危険で、
何が起こり得たかに気付いたんだ。





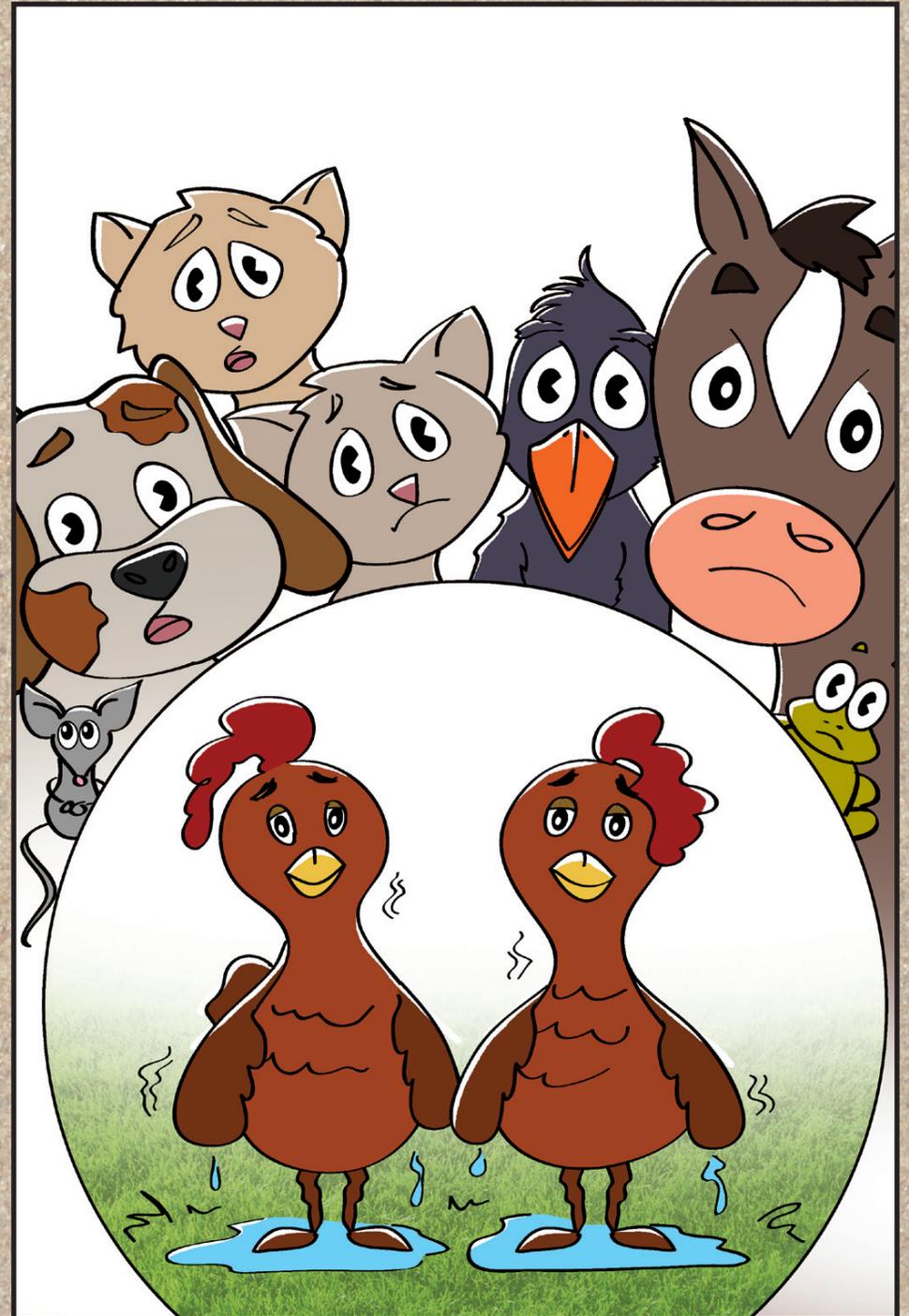
「ニワトリさんたち、
ほんとう
本当に ごめんなさい。

ぼくたちが しつこく さそった せいで、
きみ
君たちは あわや おしまいになる ところだったよ。

ぼくたちには それぞれ、
できる ことと、できない ことがある。
おたがいの 得意な ことを 尊敬するって ことは、
にがて
苦手な ことも 受け留めるって ことなんだね。」



「アヒルは 泳ぎが 得意で、カラスは 空を 飛べる。
いぬ およ
犬も 泳げるし、ネコも 泳げる。
うま うし
馬や 牛たちも みんな、泳ぐのは 上手だ。
みず てあ
だけど、ニワトリだけは、水は お手上げなんだ。」





「ほくたち ニワトリは、みんなを 夜明けに 起こせるよ。
空は 飛べなくても、まい上がる ことは できるし。
1本足で じっと 立ってる ことだって、できるんだ。
だけど、泳ぎだけは、大の 苦手なのさ。」



「ほくだって、みんなを 夜明けに 起こせるよ。
だけど、やっぱり あくびしてるだけの ほうが いい。
1本足で 立ってるなんて、とうてい 無理だし。
君たちが 1日中 してるみたいに、
虫を 食べるのだって、できっこ ないよ。」



「ほくたちだって、1本足じゃ 立てないさ。
もちろん、空だって 飛べないし。
それぞれ できる ことに 目を 留めて、
たがいを 尊重し合う ことが 大切なんだね。」





それからは、みんな、そのことを心に留めた。
それぞれの得意な^{とくい}ことと、苦手な^{にがて}ことをね。
おたがいのできることを尊敬^{ぞんけい}し、
すべきじゃない^{そんちよう}ことも尊重^{まな}することを学んだよ。

すべきじゃないことを無理^{むり}にしないで、
それぞれのすぐれている^{てん}点に目を留めながら、
ほくたちは十分^{じゅうぶん}楽しめる^{たの}って、分^わかったんだ。

